
キラキラ、ゼロ、お月様

南野彰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キラキラ、ゼロ、お月様

【Nコード】

N7051B

【作者名】

南野彰

【あらすじ】

夜の自販機は魅力的に光る。その間にはゼロとキラキラとお月様が並んで、譲り合って、どうしようもなく寂しかった。

さよならも言わせてもらえないままに、終焉^{おわり}を迎えた者たち。

それはあまりに幼くて、
あまりにくだらないやり方だった。

悲しみもそこそこ。
肩の荷がおりたとは思わなかった。

負担なんかじゃなかった。

喉が乾く。
夜中閉じ込められた檻を壊して外に出る。
きつと、帰ってきたら「どこにいったの」と青白い顔で貴女は言うだろう。かまうもんか。

夜中。
自動販売機の人工光が橙色に光り、夜の闇に馴染めずに孤立している。

そこに面白がるように集る蛾やちっばけな虫。
それらを見無視して、僕は目的の飲み物を買う。

ピンと線を張ったような静寂に、ペットボトルが落ちる音がする。

とおく、

とおく、

その音は響いて君のところまで届いているんじゃないかって、思った。

踵を返して檻へと戻る途中

空を見上げた。

当たり前のようにある暗い空にキラキラと輝く星。

その世界はゼロだった。

キラキラの空はゼロだった。

そこに、上等の生卵を割って、出てきたまんまるでぷっくりとした卵黄が浮かぶ。

ゆらゆらと、揺れてるように映る。

お月様だ。

その温かくて良い匂いの優しさに抱かれたら、なんだか泣きそうになっ
てしまっ
て必死に堪えた。

悲しくなんか
ない。

ただ、まだ慣れないだけなんだ

君が居ない現実に。

終わりも始まりも不確かで

何が大切だったのか、何がしたかったのか、どうするべきだったのか。

何も解らずここまでできたけれど。

全部が正解で

全部が不正解で

全部がキラキラで、ゼロだった。

進んでいたつもりでも、それは刹那の距離で、限りなくゼロに近かった。

今度、言葉を交わすようなことがもし、もし、あったなら。
なんて言おうか。

やっぱり、
檻に帰ったら貴女は「どこにいったの」と言っていてうんざりした顔をした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7051b/>

キラキラ、ゼロ、お月様

2011年1月16日02時57分発行